

新年のご挨拶



理事長
志村 久弥



新年明けましておめでとうございます

事業主ならびに加入員の皆さま方におかれましては、健やかに平成最後の新年をお迎えのことと謹んでお慶び申し上げます。また、昨年中は、当健康保険組合の事業運営に多大なるご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

この三月末には、高齢者医療制度への支援金等や介護保険制度への納付金増大により、大規模健保が解散を決めるなど、存続する健康保険組合にとっても、医療保険制度をとりまく情勢は、極めて厳しい時期を迎えるに至ります。いかに存続可能な組合とするのかという大きな宿題を抱えております。

さて、わが国の国民医療費は、平成二十八年度で四十二兆一千億円を超える以後も確実に増えております。これに対応するため

被用者保険では近年、国民の健康寿命の延伸と医療費の抑制的重要性が特に掲げられ、企業も自主的に「健康経営」に手を挙げ、

新年のご挨拶とさせていただきます。

結びに、皆さま方のご健勝とご発展をご祈念申し上げます。

健康保険組合が補完的にデータヘルス計画の着実な実施を含む保健事業を通じて皆さま方の健康を守るお手伝いをする、いわゆる「コラボヘルス」の実践として「健康企業宣言」事業を推進しております。「健康寿命」を伸ばし、生涯現役社会を実現するためには、生活習慣病を予防し、疾病を早期発見することあります。そのためにも若いときから健康診断や運動習慣を実践し、

食生活を改善するなど、一人ひとりが意識して取組むことが重要です。また、企業においても健康第一の風土を醸成させ、併せて、健康保険組合を健全な状態で存続させるためにも医療費を節約し、適正化させる意識が必要です。事業主ならびに加入員の皆さま方も健康保険組合と一緒に、この意識を高めていきましょう。そのためにも、皆さま方のご理解とご協力をお願い申し上げます。